

読書の秋も深まってきました。クリスマスも近くなり特別なおはなし会などを開催される予定の方も多いのではないのでしょうか？今月はよみきかせに関わっておられる大人の方々へおすすめの1冊です。

『紙芝居・共感のよろこび』

まつい のりこ／作 童心社 1998年 1620円

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般★★★

<本の紹介>

この本は紙芝居独自の特性と素晴らしさを、紙芝居の演じ方や、絵本との比較などでわかりやすく説明してくれます。著者自身が紙芝居を作成していることから、著者が紙芝居作成の中で試行錯誤した内容や理由も具体的に書かれていて、なるほどと納得できます。また、絵本作家の著者ならではの絵を多用した書き方で視覚的に書かれており読みやすいです。

紙芝居が日本独自の文化であり、絵本やストーリーテリングのように世界的な歴史や研究がないことから、よみきかせをされていても紙芝居の素晴らしさについてはまだ触れたことがない方も多いのではないのでしょうか。また、紙芝居＝街頭紙芝居、もしくは戦争紙芝居というイメージで捉えられる場合も多く、読むに値しないものというイメージを持っていらっしゃる方もいるかもしれません。私自身そういう風に紙芝居をとらえていた時期もありました。ですが、紙芝居の本当の特性と素晴らしさを知ってからは、絵本やストーリーテリングとは違う紙芝居の魅力を子どもたちにぜひ伝えたいと思っています。紙芝居の魅力にまだ触れたことのない方はぜひ一度この本を読んでみてください。具体的なやり方については同著者の『紙芝居の演じ方 Q&A』（2006年 童心社 1296円）を合わせて読まれるとわかりやすいかと思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村